

## 「立ち上がる農山漁村」選定案概要書

取 組 分 野：【 都市と農山漁村の交流】

1 . 都道府県、市町村	三重県 <sup>きわちょう</sup> 紀和町
2 . 事 業 者 名	丸山千枚田保存会
3 . 取 組 みの 名 称	千枚田保全活動を通じた都市農村交流
4 . 取 組 概 要 等	

### 概 要

紀和町丸山地区にある「千枚田」は、丸山地区の南西斜面に段々につくられた棚田の総称で、海拔90～250メートル地点に千枚にも及ぶ幾何学的な模様が四季の変化を映し出し、美しい景観を形成している。

昭和30年以降、日本経済の高度成長に伴う地区の過疎化と、高齢化や機械による省力化に限界があることから、休耕地や荒廃地が急増し、平成5年時点では570枚程度まで減少していた。

このため、この先祖から受け継いだ地域の貴重な資源である千枚田を復元したいとの地元住民の熱意と観光等で地域活性化の活路を開きたいとする町の思いが一致したことから、平成5年8月に丸山地区住民31戸で「丸山千枚田保存会」を結成したところである。

また、当保存会の活動を支援する取組として、平成6年6月、紀和町は全国でも初めての千枚田保存のための「紀和町丸山千枚田条例」を制定した。

このような保全活動を通じて、都市農山村交流の取組として、

地域住民や都市住民を対象とした「丸山千枚田田植え祭り」や「丸山千枚田稲刈りのつどい」を実施。

平成8年からは、都市住民を対象に「千枚田オーナー制度」を設け、田植え、稲刈り以外の維持管理を、保存会がサポート。

平成9年5月に竣工した交流促進センター「千枚田荘」でのそば打ち体験を通じて、都市住民が本物の生活とのふれあいや理解を深める機会を創出。

また、景観の保全の取組として、

すべて畦塗りをを行うことで幾何学的な美しさを強調するとともに、畦畔等に彼岸花を植栽するなど新しい千枚田風景を創造する自主的な取組を実施。

千枚田の水源地である共有林の間伐を共同作業として行っており、里山の保全、里山・農山村集落・棚田の一体的な美しい景観の保全の取組を実施。

既存の行政の枠組への依存度

中山間活性化推進事業(H6～H10)：そばの試験栽培、新規作物の導入

山村振興等農林漁業特別対策事業(H8)：交流促進センター「千枚田荘」や取れたて野菜等を販売する無人市場の設置

ふるさと水と土ふれあい事業(H9～H11)：千枚田サミット支援、遊歩道整備。

棚田地域等緊急保全対策事業(H10～H12)：農道整備

中山間地域振興基金(特農事業)(H11～H15)：ふるさと公社支援

三重県型デカップリング市町村総合支援事業(H11～H16)：農林地の適正管理に対して、千枚田保存会を支援。

この外、町が設立した公益法人「紀和町ふるさと公社」等行政による各種支援を得ながら、活動を継続。

地域活性化のポイント（特に経済の活性化と雇用の創出面）

千枚田という地域資源を保存するとともに、都市と農山村交流の取組を行うことにより、多くの都市住民が来町するようになり、地域の活性化に繋がっている。特に、高齢者が多い本地区においては、この保存活動や都市住民との交流活動を通じて地区が活気に満ちてきている。

また、無人市場を活用して、訪れる都市住民に新鮮な農産物等を供給することができるとともに、この販売によって僅かではあるが本来の農業生産への意欲も向上している。

【H 15実績】

丸山交流促進センター「千枚田荘」	年間宿泊者数：1,600名
丸山千枚田	年間入れ込み客数：約2,000名
丸山千枚田オーナー制度	オーナー：98組（関東、東海、近畿）

事業の今後の展開方向

今後は、担い手確保が大きな課題となっているが、価値ある農山村資源として、現在行っている保存活動が息の長い活動となるよう、引き続き行政等との連携を図りつつ、景観の保全や創造に加え、様々なイベントを通じて、都市住民との交流による新たな担い手や応援団の支援を受けながら、美しい農山村の資源「丸山千枚田」を守り続けていきたい。

コメント

地域資源である「千枚田」を保存しようとする地域住民の取組に対して、町が条例の制定、「紀和町ふるさと公社」の設立等により支援するなど、一丸となった取組が展開されている。この「千枚田」の保存を契機として、独創的で様々な都市農山村交流や景観保全の取組が行われており、地域の活性化に結びついていることが伺える。



丸山千枚田の全景



丸山千枚田田植え祭り



丸山千枚田稲刈りのつどい



丸山交流促進センター「千枚田荘」